世界を舞台に活躍する国連職員に注目!

グローバルキャリアが考える サステナブルな社会

日々、世界の最新情勢に向き合い、問題解決に尽力する国連スタッフ。
専門分野を生かしながら各機関の要職に就く3人の方々にインタビュー。
グローバルな視野から考える、真のサステナブルな社会とは?

Photos : HIROAKI TAMURA(Ms.Bangura), HIROAKI AIZAWA(Mr. Lindenbauer, Ms.Yamaguchi)
Realization : AKARI II

国連事務総長特別代表

ザイナブ・ハワ・バングーラさん

Profile　紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表。1959年生まれ、シエラレオネ出身。同国の外務国際協力大臣、保健衛生大臣を歴任後、現職。市民社会活動家、人権及び女性の権利を求める運動家としても知られる。

女性のエンパワメントを通して サステナブルな社会を目指す

出身国であるシエラレオネの民族衣装に身を包み、穏やかな表情でインタビューに答えてくれたザイナブ・ハワ・バングーラさん。紛争の最前線で、過酷な生活を強いられる女性たちと向き合ってきました。「あらゆる紛争において弱者となるのは女性と子ども。紛争の終結が最善ですが、法の整備や司法制度の強化など国家レベルでの政治的コミットメントが最重要です」。2013年には、113カ国が紛争下の性的暴力撲滅に向けた行動宣言を採択。国際社会が本格的にこの問題に取り組み始め、幾つかの国では状況に前進が見られました。同時に、女性に生きる希望を与えることも必要と言います。

「教育を受けていないので、性的暴力の被害にあっても声を上げられない。問題の根本的解決に必要なのは、女性のエンパワメント。女性が社会のコアにいるという意識を社会も女性自身ももつべきです。私はいつも、被害者の女性の言葉を直に聞くようにしています。そのたびに立ち直る力に驚かされ、同時に勇気をもらいました」

女性たちの姿に希望を見る一方、ボコハラムやISISなど非国家テロ組織の台頭を危惧。「テロの戦術として性的暴力が横行しており、国際社会が一丸となり対処しなければなりません。国家を動かすのは国民の声。高い教育を受けた日本女性も声を上げ、サポートしてほしいです」

What's Sustainable?

Q 女性にとって、サステナブルな社会とは?
A 性的暴力の撲滅が理想。現状では、被害者が絶望せず再び生きる力を得て人生を切り開く後押しをする社会。

Q サステナブルな社会実現の鍵となるのは?
A 女性のエンパワメントにおいて、教育は非常に重要な要素。貧困や差別から抜け出す強力な手段となるはず。

Q 私たちにできることとは?
A 高い教育を受けているということ自体が大きな力です。日本政府の取り組みを理解し、それを支援してもらいたい。

WAW! 2015

女性が輝く社会を目指す国際会議が東京で開催

バングーラさんは8月に開かれた「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム(WAW!)」のために来日。すべての女性が輝く社会を最重要課題の一つとして掲げる安倍政権の取り組みの一環として開かれ、国内外のトップリーダーが集まり、女性が活躍できる社会づくりについて議論しました。

〈右〉東京の国連広報センター(UNIC)所長を務める根本かおるさんと。〈左〉スペシャル・セッション「トイレを通じた女性のエンパワーメントの実現」の登壇者と共に安倍総理を囲んで。

Activities

1 紛争地の現状に触れ、女性の声を聞くため、精力的に世界中を視察。長引く紛争に加え、干ばつの影響で飢餓が深刻なソマリアの首都モガディシュにある母子健康センターを訪問(2013年)。 2 同センターで出会った女の子と。被害者に向き合い耳を傾け、交流を図ることを大切にしています。「ありがとう」の言葉が何よりの励みになるそう。 3 公式の記者会見には、民族衣装をまとい登壇(2014年)。

1,3 UN Photo/Tobin Jones　2 UN Photo/Isaac Gideon

Profile　国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)第11代駐日代表。1958年生まれ、オーストリア出身。法学博士。UNHCRスーダン事務所、オーストリア・ドイツ地域事務所代表など各国での任務を経て、2013年10月より現職。

国連難民高等弁務官事務所駐日代表

マイケル・リンデンバウアーさん

駐日代表に就任して3年目のマイケル・リンデンバウアーさんは、UNHCR職員として世界各地で30年に及ぶ経験をもっています。「出身国であるオーストリアにおいて、難民問題は重要かつ身近なものでした。この問題に取り組みたいという思いが出発点となり、今に至ります」

スーダンなど非常に厳しい状況の国々で難民問題に直に向き合った経験を生かし、現在は日本政府や関連機関、NGOと協力した活動を展開しています。「日本にいると難民問題をリアルに感じることは難しいかもしれませんが、世界規模で見ると、日本政府の貢献はきわめて大きなものです。それをまずは知ってほしいですね」

難民映画祭の開催や大学との連携など、啓発活動にも力を入れています。「難民は助けてあげるものという意識があるかもしれません。でも日本の活力ともなる存在として、彼らをオープンに受け止めてほしい。状況を知り支援する一方で、彼らにチャンスを与え共生していく。その両方向があってこそ豊かな、すなわちサステナブルな社会といえるのではないでしょうか」

社会がオープンであることが サステナビリティにつながる

What's Sustainable?

Q 難民にとって、サステナブルな社会とは?
A 一方的に支援されるのではなく、難民も社会に貢献したいという意志がある。そのためのチャンスを得られる社会。

Q サステナブルな社会実現の鍵となるのは?
A 政治的方策に加え、個人の"気づき"を高めること。難民に関心をもってもらい、問題解決のための支援を進める国の政策を支持すること。

Q 私たちにできることとは?
A 現状を知り、寄付、ボランティアなど、どんな形でも行動を起こすこと。権利を求め闘う難民が今ここにいることを知ること。

Activities

1 民間企業とも協力し合い難民支援を推進。ミャンマー出身のチンハウルンさんは、難民認定を受け「ユニクロ」の正社員に採用。活躍の場を見つけ生き生きとした笑顔を見せます。2 難民問題への意識と理解を高めるために、積極的な広報活動を展開。

今後の開発目標は、子どもの権利が尊重される社会づくり

国連児童基金(UNICEF)
東京事務所副代表(取材当時)

山口郁子(やまぐちいくこ)さん

Profile　国連児童基金(UNICEF)東京事務所本部・公的パートナーシップ局。東京都出身。日本ユネスコ協会連盟、ユネスコ・カンボジア事務所、イスラマバード日本大使館、国連世界食糧計画勤務などを経て、2010年1月より現職。

英国での大学院時代に機会を得て、ユネスコ関連のNPOでキャリアをスタートさせた山口郁子さん。複数の国連機関を経て、ユニセフで資金調達と政策提言に従事しています。「人が好きで、何らかの形で社会のエンパワメントに貢献したいと思っていました」。興味をもったら一直線で、いつの間にかこの道に入っていたと言います。

「トータルで10年ほど、ユニセフの活動に携わっています。その使命は子どもの権利の実現。紛争や災害発生時に、緊急人道支援を通じて子どもの命を守るだけでなく、彼らが健康に育ち質の高い教育を受けるための長期的開発支援を実施。9月に〝持続可能な開発目標〟が国連総会で採択され、世界全体でその実現を目指すことに合意しました」。そのために〝伝える〟機会を増やしたいとのこと。「いちばんの問題は無関心。厳しい状況に置かれた子どもの存在を知り、情報や問題意識をシェアすることが、支援の第一歩です」

SNSでシェアをする、母親が子どもに伝える、それも一つの貢献。小さな行動も、持続可能な社会の土台となるのです。

What's Sustainable?

Q 子どもにとって、サステナブルな社会とは?
A すべての子どもがもつ権利が尊重され社会参加できれば、困難な状況でも自ら回復する力をもてます。

Q サステナブルな社会実現の鍵となるのは?
A 格差是正。経済発展が進む国でも格差は深刻。誰もが未来への発展を共有できる社会が目標。

Q 私たちにできることとは?
A 政治活動やボランティア活動まで至らずとも、毎日の生活で、情報を得て共有し話し合うことが大切。

Activities

1 スーダンの遊牧民の村で。2 遊牧民のための移動式学校。3 支援する子どもの笑顔がパワーに。